

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念の掲示をしている。 ミーティング時に全員で唱和をし、理念を基に統一したケアを実践できるよう取り組んでいる。	会社の社是、経営理念については事務所に掲示している。合わせて、ホーム独自の運営理念については来訪者にもわかるようにフロアに掲示し、取り組み姿勢を明確にしている。家族に対しては利用契約時に重要事項の説明に合わせ理念についても話している。また、毎月の業務ミーティングにおいて全員で理念を唱和し共有と実践に繋げている。職員は理念のもつ意味をよく理解し利用者の思いに寄り添い支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には散歩をし、地域の方に挨拶を心掛けたり、地域のボランティアや保育園との交流会を行っている。	区費を納め自治会の一人として活動している。自治会の会合にもホーム長が出席し、交流と合わせ情報も得て、「どんど焼き」「盆踊り」等、参加できる行事には参加している。また、地区のバザーには利用者と職員で作成した大きな「ハロウインの貼り絵作品」を展示し、ホームをアピールする予定である。更に、ホームの夏祭りには地域の方々を招待もしている。合わせて保育園との交流会も月1回行い、運動会に招待され園児の踊りや歌を楽しんでいる。サマーチャレンジの受け入れも引き続き行われ、今年は5名の障害者を受け入れ、洗濯物たたみ、おやつ準備等で利用者との交流の時を過ごした。また、フラダンス、楽器演奏等のボランティアの来訪も定期的あり利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の西部包括支援センター等と協力し、認知症の方の支援や理解を活かし、地域貢献できるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動状況を報告し、アドバイスを貴重な意見をいただき、職員間で共有し、サービスの質の向上につなげている。	自治会長、民生委員、市高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、駅前交番署員、看護小規模多機能居宅介護管理者、法人支店担当者、ホーム管理者の出席で併設介護小規模多機能居宅介護事業所と合同で2ヶ月に1回開催している。活動状況報告、事故トラブル・ヒヤリハット報告、サービス提供回数報告、質疑応答、意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、会議の席上、駅前交番より詐欺被害防止についての講話を頂き出席者より好評を得たという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて意見交換・情報共有を行い、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市高齢介護課には、事故報告等で訪問し様々な事柄について相談をしている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、家族も立ち会い調査員と話をしている。また、3ヶ月に1回市の介護相談員の来訪があり、利用者と共に傾聴中心に交わりの時を持ち、気づいた事柄については報告があり支援に役立てている。診療所のケアマネージャー主催の「認知症カフェ」にホーム長、管理者などが参加し、同業者との情報交換を行っている。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止委員会の開催し、日々のケアが身体拘束につながっていないか確認したり、職員の知識を深められるよう取り組んでいる。	身体拘束を必要とする利用者はなく、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されている。帰宅願望の強い利用者があるが話をよく聞き、体調管理、排便、睡眠等をきめ細かく支援し、時としてはホームの周りを散歩したり、お手伝いなどもしていただき対応している。ホールに必ず1名の職員が在籍する体制を取り、定期的な巡回も行い、所在確認をきめ細かく行うことでセンサー類の使用を行わないようにしている。毎月の業務ミーティングの中で身体拘束廃止委員会を行い、拘束のないケアへの意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行い、知識を深めることを重ねていき、日々虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などの機会を持ち、正しく理解を深められるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約等の際には事前に準備するものや流れの説明を行い、当日時間を十分に確保し、説明・同意の上行っている。疑問や不安がある場合その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来訪された時や電話連絡の時、管理者や職員との会話の機会を持ち、日々の様子や変化をお伝えし、情報共有している。家族が遠方の方もいらっしゃるため、敬老会や御誕生日会などへ参加されるご家族は限られる。	全利用者が言葉で自分の意思を表出できる状況で、職員は優しく寄り添い話をお聞きすることで要望を汲み取るようにしている。家族の来訪は週1回～月1回位の状況で来訪時には利用者の状況を細かく話している。敬老会には大勢の家族が来訪され利用者と共にゲームや職員の出し物、食事会等を楽しんでいる。合わせて2ヶ月に1回行われる外食レクリエーションに参加される家族もいる。3ヶ月に1回、お便り「緑ヶ丘通信」を発行しホームの様子をお知らせしている。また、利用者個々の様子をお知らせする個人別お便りについても実施予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや研修時、情報の共有や意見交換を行い、ケアの統一や業務の効率化など見直し、向上するよう努めている。またご家族の気持ちに寄り添うケアについても話し合いを行っている。	月1回業務ミーティングを行い意思統一を図り、支援の向上に繋げている。支店やホーム長よりの連絡事項、事故報告、ヒヤリハット報告、各係からの報告、行事連絡、カンファレンス等を行っている。年度末には管理者による個人面談が行われ、業務内容の確認等が行われ、合わせて必要に応じ随時の個人面談も職員の見解や要望を汲み取るよう努めている。また、月1回法人内の研修計画に従い研修を実施し職員のスキルアップにも繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適宜面談を行い、職員の思いを聞き、希望に添った職場環境になるよう調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で毎月研修を行っている。法人内外問わず開催される研修会の周知はしているが、シフトの都合もあり、参加できることが少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的開催される総会やケア・カフェに参加し、交流や勉強会を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化から本人の不安や困ったことに関して表情や言動・行動から読み取り、信頼関係の構築や安心していただけるような声かけを職員全員ができるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や契約時に十分な説明を行い、ケアプラン作成時は家族の要望やご本人の必要な支援について話し合い、調整を行なえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子やご家族からの情報を基にADLの見極めや何を必要としているかを話し合い、ケアにつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活リズムを中心にご利用者様同士がお互いに支え合い、安心して暮らせるよう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関わりが増えるよう働きかけ、家族と職員の関わりも増やし、不安なことなど共有できるよう心がけ、本人の暮らしの現状を理解していただけるよう関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関わりを継続できるよう家族との外出の機会を作るよう促し、誰でも来訪できる雰囲気作りに取り組んでいる。最近では身体状況の変化で今まで外出できていた方ができなくなっている。	親戚やお孫さんの来訪があり利用者も楽しみにしている。また、1階の介護小規模多機能介護施設の利用者の中にも知り合いの方がおり、交流を楽しまれている。合わせて馴染みの床屋さんに家族と出掛ける方がいる。更に独居から入居された利用者が数名いるが、お盆、正月には家族と家に戻られている。また、年末には利用者個々の年賀状を作成し家族に発送予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係性を大切にし、孤立しないよう職員が間に入ったり、個々の性格や能力を把握し、互いを支えあい助け合える生活を送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な時にはこれまでの関係を大切にし、相談や支援をしていけるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを尊重し、ご家族の意向の確認を職員で把握するよう努めている。	利用契約時に家族からお聞きした生活歴を参考に、センター方式での情報や利用者の日々の言動等を支援の中に活かし意向に沿えるよう取り組んでいる。入浴前の衣服選び、宅配食材のチラシより食べたい物を選んで頂いたり、毎週火曜日のパンの移動販売の来訪時には自分でお金を払い好きな物を選んでいただく等、自己決定を大切にに取り組んでいる。また、日々の気づいた言動等は介護記録に纏め、出勤時に確認し業務に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の表情や言動・行動から思いや不安を汲み取り、日々の様子を記録したり、センター方式シートを活用し、生活歴から職員全員が把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのそれぞれの過ごし方を日々記録する中で見えてくる変化や気付きを職員間で共有して把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録やミーティングで情報を共有する中で現状を把握し、CMやご家族とも話し合いながら作成に取り組んでいる。	職員は1~2名の利用者を担当し、モニタリング、センター方式の情報収集、居室管理、誕生日会の準備等を担当している。6ヶ月に1回、夜勤時にモニタリングを行い、カンファレンスで検討し、管理者が家族の希望をお聞きしプランを作成している。入居時には1ヶ月~3ヶ月での目標を設定し、その後短期目標6ヶ月、長期目標1年での見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。プラン作成に当たって、水分摂取、排便状況、栄養バランス、活動量等を加味し取り組んでいる。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録へ記入し、重要な申し送りは業務日誌へ記録して職員全員が把握できるようにしている。ケア方法を見直し、実践した上で再度検討もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体状況に合わせてご家族や本人の希望や意向も踏まえ、柔軟なサービスができるよう職員間で意見交換している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理髪店・病院・警察や消防・ボランティアや自治会等と協力し、安全に日々過ごせるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診はご家族対応とし、希望がある場合は連携医の訪問診療を行っている。	入所前からのかかりつけ医利用の方が若干名おられ月1回の受診は家族にお願いし、状況は書面にて確認している。他、大多数の利用者はホーム協力医の月1回の往診に対応している。また、併設看護小規模多機能居宅施設の看護師が週1回来訪し、健康管理を行いオンライン対応で医師との連携も取り万全な医療体制を取っている。歯科については協力歯科の月1回の往診対応となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、週に一回の訪問看護に来ていただき、健康管理や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者との連携を図り、早期退院や退院後の安心した生活を提供できるよう情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制に伴い重度化した場合や終末期に向けた方針の確認を行っている。対応が可能であり、希望がある際にはご家族・医療機関の協力を得て支援を行っている。	重度化に対するホームとしての指針があり、利用契約時に説明し同意書にサインを頂いている。重度化、終末期に到った時には家族の希望もお聞きし、医師と相談しながら医療行為を必要としないギリギリの状況迄の支援に取り組み、医療行為が必要となった場合、他施設や医療機関への住み替えを含めた支援に取り組んでいる。管理者が県主催の看取りに関する研修会に参加し職員に対しフィードバックし心構えの習得に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置に関する研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、災害時対応の職員研修もを行い、緊急時に備えている。訓練時は地域の方にお知らせを行っているが参加には至っていない。	年2回、5月と10月に併設看護小規模多機能居宅介護施設と合同で防災訓練を実施している。1回は消防署参加で行い、水消火器を使つての消火訓練、通報訓練を行っている。日中、夜間、地震想定での避難訓練もを行い、利用者全員を非常階段に集め、1階まで移動して訓練を実施している。また、7月には地震体験車が来訪し地震の怖さを改めて体験した。備蓄は「水」「缶詰め」「非常食」が3～4日分準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや虐待に関する研修を行ったり、一人ひとりの人格や誇りを尊重した対応に努めている。	利用者に対する言葉遣いには気配りし、特に入浴、排泄介助の際には介助の仕方にも心配りをし、プライバシーを損ねないようにしている。入室の際には声掛けを忘れず、呼び方は尊敬の念と親しみを込め苗字に「さん」付けでお呼びしている。毎月のミーティングの中で接遇研修等も行い意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いを表現できるように声掛けをし、コミュニケーションを図ったり、環境を整えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、希望に添って支援できるよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容を日頃から習慣とし、気候に合わせて服装を選んだり、外出の際は帽子やマフラーなどプラスしている。ご家族対応で馴染みの理髪店へ赴いたり、地域の美容師の出張ヘアカットを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を召し上がりたいかを日頃から聞き取ったり、最近はコープデリを活用し、旬の食材選びができる場面を増やした。調理の盛り付け・配膳を一緒に行ったり、食器拭きなども交代で実施している。昨年より畑作業がなかなかできない。	基本的には全利用者自力で食事が出来る状況であるが時として介助が必要な時もある。献立は利用者の希望も聞きながら食事係が食材を確認しながら、直近のメニューとダブらないよう意識を立せている。利用者も味見、盛り付け、配膳等に参加している。正月、クリスマス等には季節の料理を出し、2ヶ月に1回行われる外食レクリエーションでは「回転ずし」「アイスクリーム」等を楽しんでいる。また、日曜日の午後には全員でホットプレート等を使い、ホットケーキ等の「おやつ作り」も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量を記録し、バランス良く食事をしていただくよう声かけを行っているが、声を掛けても召し上がらない場合があり、その際は食べ易い食物・水分ゼリーやカロリー飲料など代わりに提供している。		

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアができるよう声かけ・介助を行っている。毎月一回の歯科医の訪問診療を行い、口腔内の状態を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の水分摂取量や食事の工夫、行動・言動にも注意し、トイレで排泄ができるよう声かけをしている。排泄パターンを記録把握し、職員間で共有している。	見守りを必要とするが自立している方が三分の二、一部介助の方が三分の一という状況である。排泄記録表を用い排尿、排便のパターンを把握し個々のパターンに合わせ声掛けを行いトイレにお連れしている。排便促進には水分摂取1日1,500ccを目指し、「手作りの水分ゼリー」等の摂取を勧めている。また、パット使用の大きさ等を工夫しリハビリパンツの費用削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを記録や申し送り把握し、栄養バランスを考えた食事の提供・水分量を行っている。必要時に応じて連携医やかかりつけ医に相談もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声かけを行い、できる限り本人の希望に添えるよう日程の調整をし、着替えの準備などできることを支援し、安全に入浴していただいている。	週2回入浴を行い、全利用者が何らかの介助が必要な状況である。その日の気分で拒否をされる利用者があるが、誘い方に工夫をしたり日を変え入浴に繋げている。また、菖蒲湯等を使い季節を味わい楽しい入浴を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝状況の把握、ご本人のペースで休息が取れるよう声かけや介助で午睡をしていただいている。定期的にシーツ交換や居室内の環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬の情報を把握し、服薬時にはダブルチェックで飲み忘れや誤薬を防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や制作、裁縫や食事準備、散歩など一緒に行っていただくことで役割や楽しみを感じられるよう支援している。地域の方々との交流も気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日には散歩に出掛けたり、外食や紅葉狩りなどの計画を立て外出の機会を支援している。	外出時自力歩行の方が半数強、シルバーカー使用の方と車イス使用の方がそれぞれ若干ずつという状況である。天気の良い日にはホームの畑の草取りをしたり、近隣の皆様と挨拶をしながら周りを散歩している。また、日課として毎日30分体操を行い、体を動かすよう心掛けしている。更に2ヶ月に1回は外食レクリエーションを計画し、近くの大型ショッピングセンターや上田城址等へ出掛け食事と合わせ外の空気にふれるようにしている。合わせて家族と食事外出される利用者も数名いる。	

ニチイケアセンター上田緑が丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い金をお預かりし、事務所の金庫内で管理している。外出時などは金銭授受ができるよう一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの申し出があれば家族や馴染みの人と連絡がとれるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の環境整備を心がけ、季節に合わせた制作物を飾り、日付や季節を感じていただけるよう行っている。	全居室とホールがキッチンから見渡せる造りで所在確認が容易であり、安全に配慮した空間となっている。そのような中、3ヶ所の食事テーブルとテレビ前の寛ぎスペースで思い思いの生活を送っている。また、ホーム内の壁には季節に合わせ全員で作成した力作、見事な貼り絵が何枚も飾られ活動の様子が見て取れ、季節に合わせた訪問調査時は「ハロウィン」をテーマに制作に励んでいた。更に、利用者手作りの布製カレンダー横のホワイトボードには「手洗い、うがい、消毒、今日の挨拶当番」の利用者名が書き込まれ、役割を担いつつ共同生活を送っている事が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア各所に椅子やテーブルを用意しており、自由に座って過ごしていただけるよう声かけを行っている。カーペットは躓きの原因になる為昨年より外しました。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族と相談し、希望するものや必要なものを持ち込み、居心地良く安心して過ごせるよう工夫している。	陽当りの良い各居室には大きなクローゼットが備え付けられ、掃除も行き届き綺麗な中で生活している。持ち込みは家族と相談し利用者の希望も取り入れ使い慣れたタンス等の家具、テレビ、位牌等を配置し、思い思いの生活の場を作っている。また、壁には職員から送られた誕生日のお祝いカード等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし生活できるよう、導線の見直しやトイレ居室を分かりやすく掲示している。手すりや段差等バリアフリーになっている。		